

福昌寺石棺仏(渋谷区)

ここは恵比寿駅近くにある福昌寺(曹洞宗)



立派なビルも併設されている







6世紀頃と推定される家型石棺の蓋に阿弥陀像を彫りこんだ石棺仏



東三丁目10番13号 曹洞宗 渋谷山 福昌寺
区指定有形文化財 平成十九年三月一日

阿弥陀石棺仏

石棺仏とは、古墳時代の石棺を転用して、そこに仏像を彫り込んで路傍に立て庶民が礼拝の対象としたものです。本石棺仏は、古墳時代中後期頃の家型石棺の蓋を利用しており、その内側は長方形に彫り窪められています。中心部に表されるのは蓮台上に立つ阿弥陀如来像で、船形光背を負い、来迎印を結ぶ姿が浮彫りされています。現存する阿弥陀石棺仏の多くが坐像であり、このような立像は稀な例になります。

この石棺蓋の材質は、兵庫県高砂市・加西市付近を産地とする播磨竜山石と考えられます。石棺仏が彫られた時期は、その像容や年紀を持つほかの作例から見ても、南北朝時代頃と推定されます。現状は石棺蓋の上端部に物が奉置されるような窪みが穿たれていますが、阿弥陀如来像や蓮華座に破損や摩滅等がほとんど見られず、保存状態は比較的良好です。

この阿弥陀石棺仏は、和歌山県那賀郡から運ばれて来たものと伝えられ、昭和二十五年頃に造園業を営む東光園が入手して当寺に寄進したもので、東京では本例のみという珍しいものです。

渋谷区教育委員会



このような石棺仏は関東では旧岡部町岡林寺墓地内にある
大日石棺仏とこの福昌寺石棺仏の二例のみという
(参考ホームページ参照のこと)



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/tokyo/23ku/sekkan.htm>

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/okabe/dainiti.html>

